

みんなボランティア

169号

新しい発見・出会いの場を創造するボランティア情報誌

発行：宝塚社協ボランティア活動センター

～この笑顔が見たくて～ 『宝塚おもちゃ診療所』

44年前にスタートしたおもちゃの修理を担うボランティアグループ。毎月一回の診療日は大忙しです。

当初はぬいぐるみ・木製・ブリキの玩具が多かったものの、近年では電子部品を取り入れたものへと移り変わる中、長きに渡り活動を続けていらっしゃる様子を伺いました。

ドアを開ければまさに診療所。受付では壊れたおもちゃ（患者さん）のカルテ作成。各作業台（診察室）には自前のこだわりの道具を揃えて修理担当者（名医）がスタンバイ。もちろん患者さんの状態・原因・処置を丁寧に話してくれます。

物が溢れ比較的手に入り易い現代でも、大切に使い大事に想うことに価値を見いだす、人にもモノにも優しい診療所でした。



CASE1

当日だけでは修理できない場合はお預かり（入院）します。大好きなぬいぐるみと離れることが悲しい女の子の気持ちにも寄り添い、「元気になって帰って来るからね」とお医者さん。

CASE2

「30年前に息子が遊んでいたラジコンカー。孫に使えないかしら？」とご来院のお祖母さん。見事にモーター音を響かせ走る車に、誰もが自分の事のように嬉しくなりました。

CASE3

お気に入りのピカピカ光るおもちゃを修理してもらっている男の子。待合室で遊ぶのも忘れ、少し後ろから心配そうに覗き込んでいます。「ほら、なおったよ！」の一言にホッとして満面の笑み。ここのお医者さんがたは「この笑顔が見たくてずっと続けている」「どうにか直してあげたい」という思いが原動力！

技術的なお仕事をされていたばかりではなく、お互い教え合ったり相談しながら活動中。興味のある方、手先が器用な人、子ども好きな人…是非見学にご来院下さい。